

Rev. 23.00.13 からの変更点
(メーカーリリース版Rev. 23.00.14含む)
(メーカーリリース版Rev. 23.00.16含む)

■機能追加

[1] RFC3164およびRFC5424形式のSYSLOGヘッダーに対応した。

○SYSLOGパケットの形式の設定

[書式]

syslog format type TYPE
no syslog format type [TYPE]

[設定値及び初期値]

・TYPE

[設定値] :

設定値 説明

rfc3164 RFC3164 形式の SYSLOG パケットを送信する
rfc5424 RFC5424 形式の SYSLOG パケットを送信する
yamaha 従来形式 (PRI+MSG) の SYSLOG パケットを送信する

[初期値] : yamaha

[説明]

本機が送信する SYSLOG パケットの形式を設定する。
タイムスタンプは自動的に設定され、ホスト名は syslog header hostname コマンドで設定している名前が使用される。

RFC3164 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素	内容
PRI	Facility+Severities
TIMESTAMP	"Mmm dd hh:mm:ss" 形式のタイムスタンプ
HOSTNAME	ホスト名 (1..63文字)
MSG	SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

RFC5424 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素	内容
PRI	Facility+Severities
VERSION	"1" で固定
TIMESTAMP	"yyyy-mm-ddThh:mm:ss±offset" 形式のタイムスタンプ
HOSTNAME	ホスト名 (1..63文字)
APP-NAME	"-" で固定
PROCID	"-" で固定
MSGID	"-" で固定
STRUCTURED-DATA	"-" で固定
MSG	SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

yamaha 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素 内容

PRI Facility+Severities
MSG SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

○RFC形式の SYSLOG ヘッダーのホスト名の設定

[書式]

```
syslog format hostname text NAME  
no syslog format hostname [text [NAME]]
```

[設定値及び初期値]

・NAME

[設定値] : ホスト名 (半角 1...63 文字)

[初期値] : “機種名-シリアル番号”

[説明]

本機が送信するSYSLOG ヘッダーのホスト名を設定する。

syslog format type コマンドが rfc3164 または rfc5424 に設定されているとき、本コマンドで設定した値が使用される。

NAME パラメーターにはアルファベット、数字、ハイフンのみ可以使用できる。

[2] VPN拡張ライセンス (YSL-VPN-EX2) に対応した。

<https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ex-license/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[3] DHCPv6-PDサーバー機能を追加した。

<https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/dhcpv6/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[4] LANパススルー機能を追加した。

https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/lan_pass-through/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[5] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]で、IKEv2を用いたリモートアクセスVPNに対応した。

[6] Web GUIの詳細設定で、[VPN]-[拠点間接続]を追加した。

現在は以下の接続種別のみ対応。

- IPsec/IKEv1接続 (IPv4/IPv6 over IPv4)
- IPsec/IKEv1接続 (IPv4/IPv6 over IPv6)

[7] NATのポートセービングIPマスカレード機能で、UDPパケットに対応した。

○NAT 機能の動作タイプの設定

[書式]

```
nat descriptor backward-compatibility TYPE  
no nat descriptor backward-compatibility [TYPE]
```

[設定値及び初期値]

・TYPE

[設定値] :

設定値	説明
-----	----

- | | |
|---|---|
| 1 | Rev. 14 系以前の動作タイプ (ポートセービング IP マスカレード機能を無効にする) |
| 2 | Rev. 14.01 系以降の動作タイプ (TCP パケットに対してポートセービング IP マスカレード機能を有効にする) |
| 3 | Rev. 19.00 系以降で使用可能な動作タイプ (TCP パケットおよび UDP パケットに対してポートセービング IP マスカレード機能を有効に |

する) ★

[初期値] :

- 1 (RTX5000、RTX3500)
- 2 (上記以外)

[説明]

NAT 機能全体の動作タイプを設定する。

Rev. 14. 01 系以降の機種では、TCP パケットのポートセービング IP マスカレード機能に対応しており、IP マスカレードにおいて同一のポート番号を使用して複数の接続先とのセッションを確立できる。

また、TYPE パラメータに 3 を設定した場合、TCP パケットおよび UDP パケットをポートセービング IP マスカレード機能の対象にできる。

本コマンドは、ポートセービング IP マスカレード機能をサポートしていない Rev. 14 系以前の機種との互換性維持のために用意されており、TYPE パラメータに 1 を設定した場合の NAT 機能の動作は、Rev. 14 系以前の NAT 機能の動作と同等となる。

type パラメータに 2 または 3 を設定して動作させた場合に問題が生じる場合は、type パラメータを 1 にして NAT 機能を使用する必要がある。

[ノート]

本コマンドによる設定の変更を反映するには、ルーターの再起動が必要となる。

TYPE パラメーター 3 は、Rev. 15. 04 系以前、vRX Amazon EC2版 Rev. 19. 00. 08 以前、vRX VMware ESXi版 Rev. 19. 01. 09 以前、vRX さくらのクラウド版 Rev. 19. 02. 10 以前、RTX1300 Rev. 23. 00. 16 以前、RTX3510 Rev. 23. 01. 03 以前、および、RTX840 Rev. 23. 02. 02 以前では指定不可能。

[8] RFC3021に対応した。

この変更により、/31のネットマスクを設定したIPv4アドレスが使用可能になる。

○IP アドレスの設定

[書式]

```
ip INTERFACE address IP_ADDRESS/MASK [broadcast BROADCAST_IP]
ip INTERFACE address DHCP
ip WAN address PDP
ip pp address IP_ADDRESS[/MASK]
ip LOOPBACK address IP_ADDRESS[/MASK]
ip BRIDGE_INTERFACE address IP_ADDRESS/MASK [broadcast BROADCAST_IP]
ip BRIDGE_INTERFACE address DHCP [autoip=SWITCH]
no ip INTERFACE address [IP_ADDRESS/MASK [broadcast BROADCAST_IP]]
no ip INTERFACE address [DHCP]
no ip WAN address [PDP]
no ip pp address [IP_ADDRESS[/MASK]]
no ip LOOPBACK address [IP_ADDRESS[/MASK]]
no ip BRIDGE_INTERFACE address [IP_ADDRESS/MASK [broadcast BROADCAST_IP]]
no ip BRIDGE_INTERFACE address [DHCP]
```

[設定値及び初期値]

・ interface

[設定値] : LAN インターフェース名、ONU インターフェース名

[初期値] : -

・ WAN

[設定値] : WAN インターフェース名

[初期値] : -

・ LOOPBACK

[設定値] : LOOPBACK インターフェース名

[初期値] : -

・ BRIDGE_INTERFACE

[設定値] : ブリッジインターフェース名

[初期値] : -

・ IP_ADDRESS

[設定値] : IP アドレス xxx. xxx. xxx. xxx (xxx は十進数)

[初期値] : -

・ DHCP : DHCP クライアントとして IP アドレスを取得することを示すキーワード

- ・ [初期値] : -
- ・ PDP : 内蔵無線 WAN モジュールから IP アドレスを取得することを示すキーワード
- ・ [初期値] : -
- ・ MASK
 - ・ [設定値] :
 - ・ xxx.xxx.xxx.xxx (xxx は十進数)
 - ・ 0x に続く十六進数
 - ・ マスクビット数
 - ・ [初期値] : -
- ・ BROADCAST_IP
 - ・ [設定値] : ブロードキャスト IP アドレス
 - ・ [初期値] : -
- ・ SWITCH
 - ・ [設定値] :

設定値 説明

on : AutoIP 機能を使う
 off : AutoIP 機能を使わない

[初期値] : off

[説明]

BROADCAST_IP インターフェースの IP アドレスとネットマスクを設定する。 “BROADCAST_IP” を指定すると、ブロードキャストアドレスを指定できる。省略した場合には、RFC3021 に対応している機種ではネットマスクのマスクビット数が 31 ビットならリミテッドブロードキャストアドレスが、それ以外ならディレクティッドブロードキャストアドレスが使われる。 ★
 DHCP を指定すると、設定直後に DHCP クライアントとして IP アドレスを取得する。また DHCP を指定している場合に no ip interface address を入力すると、取得していた IP アドレスの開放メッセージを DHCP サーバーに送る。

[ノート]

LAN インターフェースと ONU インターフェースに IP アドレスを設定していない場合には、RARP により IP アドレスを得ようとする。
 PP インターフェースに IP アドレスを設定していない場合には、そのインターフェースは unnumbered として動作する。
 DHCP クライアントとして動作させた場合に取得したクライアント ID は、show status dhcpc コマンドで確認することができる。
 工場出荷状態および cold start コマンド実行後の本コマンドの設定値については「1.x 工場出荷設定値について」を参照してください。
 以下の機種は RFC3021 に対応している。 ★
 - RTX1300 Rev. 23.00.17 以降 ★

- [9] IP マスカレードで管理しているセッションのピーク値を表示、およびクリアするコマンドを追加した。

○ IP マスカレードで管理しているセッションのピーク値を表示

[書式]

show nat descriptor masquerade session peak [NAT_DESCRIPTOR]

[設定値及び初期値]

- ・ NAT_DESCRIPTOR
 - ・ [設定値] :
 - ・ NAT ディスクリプタ番号 (1..2147483647)
 - ・ NAT_DESCRIPTOR 省略時はすべての NAT ディスクリプタについて表示する。
 - ・ [初期値] : -

[説明]

IP マスカレードで管理しているセッションがピークを記録したときのセッション数と時刻を表示する。また、ピークを記録したときにセッション数の多かったホストを上位 5 件表示する。

ピーク値は以下の操作でクリアされる。
 - ルーターを再起動したとき

- NAT ディスクリプタの設定を変更したとき
- clear nat descriptor masquerade session peak コマンドを実行したとき
- Web GUI に対応している機種の場合、ダッシュボードの [Live]-[NATセッション数] ガジェットで「ピーク値のクリア」を実行したとき

[ノート]

静的 IP マスカレードエントリから派生して生成された IP マスカレードエントリは表示されない。

本コマンドは、nat descriptor backward-compatibility コマンドで、TYPE パラメータを 2 または 3 に設定した場合のみ使用可能である。

○IPマスカレードで管理しているセッションのピーク値をクリア

[書式]

clear nat descriptor masquerade session peak [NAT_DESCRIPTOR]

[設定値及び初期値]

・ NAT_DESCRIPTOR

[設定値] :

・ NAT ディスクリプタ番号 (1..2147483647)

・ NAT_DESCRIPTOR 省略時はすべての NAT ディスクリプタをクリアする。

[初期値] : -

[説明]

IP マスカレードで管理しているセッションのピーク値をクリアする。

[ノート]

本コマンドは、nat descriptor backward-compatibility コマンドで、TYPE パラメータを 2 または 3 に設定した場合のみ使用可能である。

- [10] 動的フィルタによって管理されているコネクションのピーク値を表示、およびクリアするコマンドを追加した。

○動的フィルタによって管理されているIPv4コネクションのピーク値を表示

[書式]

show ip connection peak

[説明]

動的なフィルタによって管理されているIPv4コネクションのピーク値を表示する。

ピーク値は以下の操作でクリアされる。

- ルーターを再起動したとき
- IPフィルタの設定を変更したとき
- Web GUI に対応している機種の場合、ダッシュボードの [Live]-[動的フィルタセッション数] ガジェットで「ピーク値のクリア」を実行したとき
- clear ip connection peakコマンドを実行したとき

○動的フィルタによって管理されているIPv6コネクションのピーク値を表示

[書式]

show ipv6 connection peak

[説明]

動的なフィルタによって管理されているIPv6コネクションのピーク値を表示する。

ピーク値は以下の操作でクリアされる。

- ルーターを再起動したとき
- IPv6フィルタの設定を変更したとき
- Web GUI に対応している機種の場合、ダッシュボードの [Live]-[動的フィルタセッション数] ガジェットで「ピーク値のクリア」を実行したとき
- clear ipv6 connection peakコマンドを実行したとき

○動的フィルタによって管理されているIPv4コネクションのピーク値をクリア

[書式]

clear ip connection peak

[説明]

動的なフィルタによって管理されているIPv4コネクションのピーク値をクリアする。

○動的フィルタによって管理されているIPv6コネクションのピーク値をクリア

[書式]

```
clear ipv6 connection peak
```

[説明]

動的なフィルターによって管理されているIPv6コネクションのピーク値をクリアする。

- [11] LANマップで、スイッチのゼロコンフィグ機能に対応した。
これに伴い、switch control config-auto-set useコマンドを追加した。

○スイッチのゼロコンフィグ機能を使用するか否かの設定

[書式]

```
switch control config-auto-set use USE  
no switch control config-auto-set use [USE]
```

[設定値及び初期値]

・USE

[設定値] :

設定値	説明
on	使用する
off	使用しない

[初期値] : off

[説明]

スイッチのゼロコンフィグ機能を使用するか否かを設定する。
スイッチのゼロコンフィグ機能が有効かつ、L2MSエージェントのヤマハスイッチの設定（コンフィグ）が保存されている場合、工場出荷状態のL2MSエージェントがネットワークに接続されたときに、保存されている設定（コンフィグ）を自動で設定する。

- [12] LANマップで、複数のL2MSマネージャーが検出されたとき、警告を表示するようにした。
- [13] LANマップで、SWX2200/2100/2110シリーズのファームウェアを更新するとき、PCに保存されたファイルを使用できるようにした。

■仕様変更

- [1] L2MSで、エージェントの最大管理台数を64台から128台に拡張した。
- [2] L2MSの処理性能を向上させた。
- [3] IPsec経路自動追加機能で、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0ではない経路を追加できるようにした。
- [4] 以下のコマンドで、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0でない経路を入力できるようにした。
- bgp force-to-advertise
- ip INTERFACE rip force-to-advertise
- ip route
- [5] ip keepaliveコマンドで、logオプションがonのとき、SYSLOGに出力されるip keepaliveコマンドの識別番号の表示を3桁から4桁に変更した。
- [6] show status lanコマンドで、ルーター内部のデバイスの送信用バッファ不足によってロスしたパケット数を「送信バッファエラー(全LAN共通)」として表示するようにした。
いずれのLANインターフェースでclear status lanコマンドを実行しても、値をクリアする。
- [7] show status ipv6 dhcpコマンドで、Information-Requestに対するReply内の以下の情報を表示するように変更した。
- DNS server
- Domain name

- [8] show status bridgeコマンドで、ブリッジインターフェースに收容されたLANインターフェースのMTUを表示するようにした。
- [9] 以下のコマンドで、対象インターフェースのMTUを表示するようにした。
- show status lan
 - show status pp
 - show status tunnel
- [10] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[プロバイダー接続状態]ガジェットで、IPv6 IPoE接続のとき、接続種別のツールチップに詳細情報を表示するようにした。
- [11] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[インターフェース情報]ガジェットで、各LANインターフェースのツールチップにMTUを表示するようにした。
- [12] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、接続種別が「DHCP、または固定IPアドレスによる接続」のとき、プロバイダーの設定画面からMTUの値を設定できるようにした。
- [13] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、MTUを設定できるようにした。
- [14] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[プロバイダー接続状態]ガジェットで、以下のプロバイダー接続のとき、状態にIPv4アドレスを表示するようにした。
- IPv6 IPoE接続
 - BIGLOBE IPv6 オプション
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCN バーチャルコネクト 動的 IP 契約
 - OCN バーチャルコネクト 固定 IP 契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス IPv6/IPv4インターネットサービス
 - v6プラス 固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [15] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、以下のプロバイダー接続のとき、接続状態にIPv4アドレスを表示するようにした。
- IPv6 IPoE接続
 - BIGLOBE IPv6 オプション
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCN バーチャルコネクト 動的 IP 契約
 - OCN バーチャルコネクト 固定 IP 契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス IPv6/IPv4インターネットサービス
 - v6プラス 固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [16] Web GUIの以下のページで、IPv6 IPoE接続を設定しているとき、設定の一覧の接続種別に、詳細情報を表示するようにした。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]
- [17] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]-[共通設定]で、設定項目に「クライアントに割り当てるIPアドレス」を追加した。
- [18] 動的フィルターで、管理できるセッション数の上限を120,000から250,000に変更した。
- [19] L2MSの処理性能を向上させた。
- [20] YNOエージェント機能で、YNOマネージャーの[機器詳細]-[コマンド実行]から以下のコマンドを実行できるようにした。
- embedded file
 - macro

[21] モバイルインターネット接続機能で、FS040Uを使用しているときに網へ接続している状態でも電波受信レベルを取得できるようにした。

[22] L2MSで、端末管理機能が有効なとき、show status switch controlコマンドの出力結果にエージェントに接続している端末数を表示するようにした。

○エージェント一覧の表示

[書式]

show status switch control [INTERFACE]

[設定値及び初期値]

・ INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名、ブリッジインターフェース名、VLAN インターフェース

[初期値] : -

[説明]

エージェントの一覧を表示する。INTERFACE を省略した場合は、すべてのインターフェースについて情報を表示する。

L2MS の動作状態に応じて、以下の情報を表示する。

- L2MS のマネージャーとして動作している場合

- MAC アドレス

- 機種名

- 機器名

- マネージャーからの経路

- アップリンクポート

- エージェントを操作するときに指定する経路

- 現在使用している設定内容

- エージェントに接続している端末と消失した端末の合計(端末管理機能が有効なときのみ)★

- L2MS のエージェントとして動作している場合

- マネージャーの MAC アドレス

[ノート]

ブリッジインターフェースは RTX1210 Rev. 14. 01. 20 以降のファームウェア、および、Rev. 15. 02 系以降のすべてのファームウェアで指定可能。

VLAN インターフェースは RTX1210 Rev. 14. 01. 42 以降、RTX830 Rev. 15. 02. 30 以降、および RTX1220 Rev. 15. 04. 07 以降で指定可能。

[23] nslookupコマンドにオプションを追加した。

- server

- edns

- type

- cache

Onslookup

[書式]

nslookup HOST [server=SERVER [edns=EDNS]] [type=TYPE] [cache=CACHE]

[設定値及び初期値]

・ HOST

[設定値] :

IPv4 アドレス

IPv6 アドレス

ホスト名

[初期値] : -

・ SERVER ★

[設定値] : 名前解決に使用する DNS サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス

[初期値] : -

・ EDNS ★

[設定値] :

設定値	説明
-----	----

on	対象の DNS サーバーへの通信を EDNS で行う
off	対象の DNS サーバーへの通信を DNS で行う

- [初期値] : off
・ TYPE ★
[設定値] :

設定値	説明
-----	----

A	IPv4 アドレスを取得する
AAAA	IPv6 アドレスを取得する
A+AAAA	IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを取得する
PTR	IP アドレスからドメイン名を取得する
auto	HOST の設定値に応じて動作する

- [初期値] : auto
・ CACHE ★
[設定値] :

設定値	説明
-----	----

on	DNS キャッシュを優先して名前解決を行う
off	DNS キャッシュを無視して名前解決を行う

[初期値] : on

[説明]

DNS による名前解決を行う。
TYPE を auto に設定したときは、HOST の設定値が IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのときは A および AAAA を取得し、FQDN のときは PTR を取得する。
CACHE を on に設定したときであっても、dns cache use が off なら DNS キャッシュを使用しない。

[ノート]

AAAAレコードとIPv6アドレスのPTRレコードは、以下の機種およびリビジョンで使用不可能。
RTX830 Rev. 15. 02. 08以前
RTX1210 Rev. 14. 01. 32以前
RTX5000 / RTX3500 Rev. 14. 00. 25以前

serverオプション、ednsオプション、typeオプションおよびcacheオプションは以下の機種およびリビジョンで使用不可能。
RTX830 Rev. 15. 02. 33以前
RTX1210 Rev. 14. 01. 42以前
RTX1220 Rev. 15. 04. 07以前
RTX1300 Rev. 23. 00. 16以前
RTX3510 Rev. 23. 01. 03以前
RTX5000 / RTX3500 Rev. 14. 00. 34以前

[24] show nat descriptor addressコマンドおよびshow nat descriptor interface addressコマンドで、IPマスカレードテーブルの表示内容を以下のように変更した。

- コマンドの実行時刻を表示するようにした
- セッション数を表示する項目のタイトルや位置を変更した
- セッションが存在しない場合でもセッション数を表示するようにした

[25] sip useコマンドで、設定をonからoffに変更したときに再起動を促す警告を表示するようにした。

[26] show ip/ipv6 connectionコマンドの表示内容を変更した。

- ルーター全体のコネクション数と現在時刻を表示するようにした
- detailキーワードを指定した場合、インターフェースごとにコネクション数を表示するようにした
- summaryキーワードを指定した場合、ルーター全体のコネクションが1つも存在しないときはインターフェースごとにコネクション数を表示しないようにした

[27] show lan-mapコマンド実行時に、検索時間を表示しないようにした。

[28] Web GUIの[管理]-[保守]-[コマンドの実行]で、以下のコマンドを実行できるよう

- にした。
- embedded file
- macro

- [29] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[NATセッション数]ガジェットで、statistics nat コマンドの設定が無くてもIPマスカレードで管理しているセッション情報を記録、表示するようにした。
nat descriptor backward-compatibilityコマンドでtypeパラメーターを2または3に設定した場合に影響する。
typeパラメーターを1に設定した場合は影響しない。
- [30] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に入力するときのエラーチェックを強化した。
- [31] Web GUIで、IPsec接続の表記を以下の通り変更した。
- 変更前
 - IPsec
 - IKEv2
 - 変更後
 - IPsec/IKEv1
 - IPsec/IKEv2
- [32] Web GUIのかんたん設定の[アプリケーション制御]で、「フィルターと経路の設定」から設定するアプリケーションに、以下のアプリケーションを追加した。
- Office365 : MS Copilot
- [33] Web GUIのLANマップの以下のページで、スイッチの機器名に入力可能な文字数と文字種をエージェント側の仕様に合わせるよう変更した。
- [スイッチの設定・保守]-[機器名の設定]
 - [機器一覧]-[機器の設定]
- [34] Web GUIのかんたん設定と詳細設定の[プロバイダー接続]の以下のページで、インターフェースIDのエラーチェックを強化した。
- BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

■バグ修正

- [1] NGN網接続機能で、リナンバリング時にリブートすることがあるバグを修正した。
ルーター広告を送信するインターフェースが多い場合に発生する。
- [2] Luaスクリプト機能で、ライブラリ関数rt.socket.dns.tohostname()を実行すると、リブートしたりハングアップしたりすることがあるバグを修正した。
- [3] IPUDPを使用したデータコネクト拠点間接続で、データコネクトの切断時にファストパスのフローがあるとリブートすることがあるバグを修正した。
- [4] SNMPで、SYNTAXがOCTET STRINGのMIBオブジェクトの値を取得すると、取得に失敗したりリブートしたりすることがあるバグを修正した。
- [5] Luaスクリプト機能で以下のライブラリ関数を使用すると、ルーターの動作が不安定になる可能性を排除した。
- rt.socket.dns.tohostname
 - rt.socket.dns.toip
 - TCPオブジェクト (rt.socket.tcp)
 - connect
 - bind
 - UDPオブジェクト (rt.socket.udp)
 - setpeername
 - setsockname

- [6] dns hostコマンドで、設定値に以下のキーワードを指定しているとき、IPv6のDNSパケットを受信するとパケットの送受信ができなくなることがあるバグを修正した。
- bridge1
 - lan
 - lanN
 - lanN/M
 - vlanN
 - wan1
- [7] BGP機能で、ルーティングテーブルに導入されない経路を受信後、同一経路がルーティングテーブルに導入される経路に変化してもルーティングテーブルに導入しなくなることがあるバグを修正した。
- [8] データコネクト拠点間接続機能でNGN回線を利用したとき、DHCP更新時に情報に変更が無いにもかかわらず経路情報が上書きされ、通信が切断することがあるバグを修正した。
- [9] ARP要求を受信したとき、そのARP要求の宛先IPアドレスが受信インターフェースと異なるインターフェースのIPアドレスだった場合に、ProxyARPが無効であってもARP応答してしまうバグを修正した。
- [10] NAT46機能で、トンネルインターフェースでファストパスのパケットがカウントされないバグを修正した。
- [11] NAT46機能で、トンネルインターフェースで発生する以下のバグを修正した。
- ノーマルパス経由のパケットがカウントされない
 - トンネルインターフェースにIPv6フィルターを設定すると意図しないパケットがフィルタリングされる
- Rev. 23. 00. 05以降で発生する。
- [12] L2MSで新規のエージェントを検出したとき、当該エージェントが消失端末として端末一覧に表示されることがあるバグを修正した。
- [13] 以下のパケットをブリッジインターフェース経由で転送すると、IPv4パケットとしてカウントされるバグを修正した。
- IPv6でファストパス対象外のパケット
 - IPプロトコル以外のパケット(ARPなど)
- [14] SNMPで、SNMPトラップのtimestampフィールドの値がBasic Encoding Ruleに従っていないバグを修正した。
- このため、特定のSNMPマネージャーでは表示が不正になることがあった。
- [15] 以下の機能で、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0ではない経路の広告がデフォルト経路として取り込まれるバグを修正した。
- RIPv2
 - OSPF
 - BGP
- [16] PPPoEパススルー機能で、ファストパスで処理されたIPv6 PPPoEパケットをSNMPのMIB変数でカウントしないバグを修正した。
- [17] PPPoE接続で、タグVLANインターフェースを使用をしているとき、ノーマルパスで処理されたIPv6の受信パケット数がカウントされないバグを修正した。
- [18] IPv6マイグレーション技術の国内標準プロビジョニング方式対応機能で、SYSLOGメッセージの誤記を修正した。
- [19] lan typeコマンドで、MTUに1280未満を設定したとき、IPv6のMTUに1280未満が適用されてしまうバグを修正した。
- この修正により、lan typeコマンドでMTUに1280未満を設定したとき、ipv6 INTERFACE mtuコマンドの設定値に関わらず、IPv6のMTUには1280が適用される。
- [20] clear status bridgeコマンドを実行したとき、LAN1インターフェースで処理され

たノーマルパスのIPv6の送受信パケット数がクリアされるバグを修正した。

- [21] 以下のコマンドや経路変更時のログで、宛先が0.0.0.0かつネットマスクが0でない経路が「default」と表示されるバグを修正した。
 - show ip route
 - show ip rip table
 - show status bgp neighbor
- [22] show status ipv6 dhcpコマンドで、Information-Requestに対するReplyの応答状態を示す「state : reply」が複数行表示されてしまうことがあるバグを修正した。
- [23] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPIPに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に上限値の64文字を超える文字列を設定しようとしたとき、不適切なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。
- [24] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、データコネクトの設定を持つインターフェースに設定された以下のプロバイダー接続を削除したとき、LAN1インターフェースのIPv6アドレスの設定が不正に削除されるバグを修正した。
 - IPv6 IPoE接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [25] Web GUIの以下のページで、IPv6 IPoE接続の新規作成を行うとき、「戻る」ボタンで画面遷移した場合に入力内容がリセットされてしまうことがあるバグを修正した。
 - かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - 接続種別の選択
 - プロバイダー情報の設定
- [26] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、データコネクト拠点間接続を設定するとき、以下のテキストボックスが未入力状態で[次へ]ボタンを押した場合に不適切なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。
 - 自分側のひかり電話番号
 - 使用する帯域の任意の値
 - 接続先のひかり電話番号
- [27] Web GUIのLANマップの「リンクアグリゲーションの設定」ダイアログで、インターフェースの一覧の[設定]/[追加]ボタン以外の場所をクリックしても「論理インターフェースの基本設定」ダイアログを表示するバグを修正した。
- [28] Web GUIのかんたん設定の[アプリケーション制御]-[フィルターと経路]で、デフォルトゲートウェイに設定されていないインターフェースを経路に設定したとき、設定されたインターフェースのプロバイダー設定が、かんたん設定および詳細設定のプロバイダー接続のページに表示されなくなるバグを修正した。
- [29] Web GUIのLANマップの以下のページで、スイッチの機器名に入力可能な文字数と文字種をエージェント側の仕様に合わせるよう変更した。
 - [スイッチの設定・保守]-[機器名の設定]
 - [機器一覧]-[機器の設定]

文字数と文字種の変更内容は以下の通り。

- 変更前
 - SWX2200
 - 半角32文字まで
 - 半角英数字、'-' と '_'
 - SWX2200以外のスイッチ
 - 半角32文字まで
 - 制限なし
 - エージェントルーター
 - 半角32文字まで
 - 半角英数字、半角スペース、'-' と '_'

- 変更後
 - SWX2200
 - 半角64文字まで
 - 半角英数字、'-' と '_'
 - SWX2200以外のスイッチ
 - 半角63文字まで
 - 半角英数字、半角記号
 - エージェントルーター
 - 半角32文字まで
 - 半角英数字、半角スペース、'-' と '_'

[30] Web GUIのダッシュボードの[History]の「統計情報の記録機能の設定」ダイアログで、パスワードを入力したとき、画面が一番上までスクロールしてしまうバグを修正した。

[31] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、以下の接続種別を設定するとき、設定ページと入力内容の確認ページで認証アルゴリズムの表記が揃っていないバグを修正した。

- IPsec
- データコネクト (IPsec)

[32] Web GUIの以下のページのテキストボックスで、半角カタカナを入力してもエラーにならないバグを修正した。
半角カタカナのみを入力したときは、[設定の確定]ボタンを押しても設定されない。

- かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]
 - IPsec
 - 設定名
 - 自分側のID
 - 接続先のホスト名またはIPアドレス
 - 接続先のID
 - 認証鍵 (pre-shared key)
 - PPTP
 - 設定名
 - ユーザーID
 - 接続パスワード
 - IPsec
 - 設定名
 - データコネクト (IPsec)
 - 設定名
 - 認証鍵 (pre-shared key)
 - データコネクト (IPUDP)
 - 設定名
- かんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]
 - 認証鍵 (pre-shared key)

[33] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、IPv6 PPPoE接続にMTUの設定をしたとき、ipv6 pp mtuコマンドではなく ip pp mtuコマンドが設定されるバグを修正した。

[34] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]-[設定内容]で、IPv6 PPPoE接続の「MTUの値」に、ipv6 pp mtuコマンドではなく ip pp mtuコマンドの値が表示されるバグを修正した。

[35] Web GUIのLANマップで、スイッチのポートの給電操作を行った後に再度[ポートの給電操作]ボタンを押したとき、不正なダイアログが表示されることがあるバグを修正した。

[36] Web GUIのLANマップで、「スナップショットの保存」ダイアログの誤記を修正した。

[37] Web GUIの以下のヘルプページで、誤記を修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[LAN]-[フレキシブルLAN/WANポート]
- 詳細設定の[VLAN]-[タグVLAN]

- 詳細設定の[ルーティング]
- 詳細設定の[NAT]
- 詳細設定の[DHCPサーバー]

[38] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。

- dhcp scope

[39] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したパケットを処理すると、リブートすることがあるバグを修正した。

[40] SYSLOG送信機能で、SYSLOGパケットの送出インターフェースがダウンしているときにSYSLOGパケットの送信が発生するとリブートすることがあるバグを修正した。

[41] 起動後にPPTPまたはL2TP/IPsecのanonymous接続の設定を行い、登録したanonymousユーザーが接続したときにIPv6CPがUPすると、接続/切断が行われるたびにメモリーリークが発生するバグを修正した。

Rev. 23. 00. 12以降で発生する。

[42] ngn typeコマンドが未設定のとき、DHCPv6-PDクライアントとしてルーターが送信するSolicitメッセージに不正なIA Prefixオプションが付与されるバグを修正した。

[43] PPPoE接続で、タグVLANインターフェースを使用しているとき、PPインターフェースのノーマルパスの送信パケット数が1パケットにつき4バイト少なくカウントされるバグを修正しました。

[44] SNMPで、PPインターフェースから送信したブロードキャストのパケットが、ユニキャストのパケットとしてカウントされるバグを修正した。
具体的には、ifOutNUcastPkts、ifOutMulticastPkts、ifHCOutMulticastPktsではなく、ifOutUcastPkts、ifHCOutUcastPktsとしてカウントされる。

[45] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したパケットをトンネルインターフェースへ転送したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。

[46] SNMPで、タグVLANインターフェースに対して以下のMIB変数の値を取得しようとする

- atIfIndex
- atPhysAddress
- atNetAddress
- ipNetToMediaIfIndex
- ipNetToMediaPhysAddress
- ipNetToMediaNetAddress
- ipNetToMediaType

と、取得できなかったり不正な値を取得したりするバグを修正した。

[47] PPPoEパススルー機能で、PPPoEパススルー機能を有効にするとLANインターフェースにプロミスキャスモードが設定されるが、無効にしても解除されないバグを修正した。

[48] ブリッジインターフェースで、ブリッジインターフェースに收容するとそのLANインターフェースにプロミスキャスモードが設定されるが、收容から外しても解除されないバグを修正した。

[49] show status ipv6 dhcpコマンドで、実行時に表示される項目名の誤記を修正した。

[50] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。

- ipv6 INTERFACE rtadv send
- ipv6 prefix

[51] ルーター稼働中にごく稀にリブートすることがあるバグを修正した。

[52] console characterコマンドをja.utf8に設定しているときに、コンソール上でシフトJISで対応していない文字コードを入力するとリブートするバグを修正した。

[53] Luaスクリプト機能で、検索文字列に正規表現オブジェクトを指定したrt.syslogwatch

の実行中に、瞬間的に大量のSYSLOGが出力されるとリブートすることがあるバグを修正した。
なお、rt.syslogwatchにおいて未処理のSYSLOGが10万行を超えた場合、超過分のSYSLOGは処理対象から除外され、該当するSYSLOGの末尾には「(missed in rt.syslogwatch)」

というメッセージが付加される。

- [54] VPN機能で、対向から通常の通信では発生しない異常なパケットを受信したとき、リブートすることがあるバグを修正した。
また、このようなパケットを受信したときには、以下のデバッグレベルのログを出力しパケットを破棄するようにした。
 - Packet dropped on インタフェース (duplicate tunnel encapsulation)
 - Packet dropped on インタフェース (multiple tunnel encapsulation)
 - [55] IPsec機能で、既に設定されているipsec transportコマンドを変更または上書きするとリブートすることがあるバグを修正した。
 - [56] SFTPサーバー機能で、一部のSFTPクライアントから接続されたときにリブートまたはハングアップするバグを修正した。
 - [57] SYSLOG機能で、SYSLOGの出力処理中にsyslog hostコマンドを設定するとメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。
- Rev. 23. 00. 16で発生する。
- [58] SSHクライアント機能で、sshコマンドを実行するときにメモリーリークが発生するバグを修正した。
 - [59] YNOエージェント機能で、YN0マネージャーの[機器詳細]-[コマンド実行]から複数行のコマンドを実行するとメモリーリークが発生するバグを修正した。
 - [60] BGP機能で、以下のいずれかのタイミングでメモリーリークが発生するバグを修正した。
 - 既存の経路より優先度の高い経路が追加された
 - 同じ宛先の経路を複数受信している状態で最も優先度の高い経路が削除された
 - [61] ステートレスDHCPv6クライアントまたはDHCPv6-PDクライアント機能で、SIP Servers IPv6 Address Listオプションが設定されたメッセージを受信したとき、メモリーリークが発生するバグを修正した。
 - [62] L2TP/IPsec接続で、ノーマルパス時にPPインターフェースのMTUに従ってパケットがフラグメントされてしまうバグを修正した。

○インタフェースの MTU の設定

[書式]

```
ip INTERFACE mtu MTU0
ip pp mtu MTU1
ip tunnel mtu MTU2
no ip INTERFACE mtu [MTU0]
no ip pp mtu [MTU1]
no ip tunnel mtu [MTU2]
```

[設定値及び初期値]

・ INTERFACE

[設定値] :

- ・ LANインタフェース名
- ・ WANインタフェース名
- ・ vRX シリーズ、RTX5000、および RTX3500 では指定不可能

[初期値] : -

・ MTU0, MTU1, MTU2

[設定値] : MTU の値 (64..1500 ; RTX5000、RTX3500 の LAN インタフェースは 64..9578、RTX3510、RTX1300 の LAN インタフェースは 64..10218)

[初期値] :

- ・ MTU0=1500

- ・ MTU1=1500
- ・ MTU2=1280

[説明]

各インタフェースの MTU の値を設定する。

[ノート]

実際にはこの設定が適用されるのは IP パケットだけである。他のプロトコルには適用されず、それらではデフォルトのまま 1500 の MTU となる。

L2TP接続ではトンネルインターフェースやPPインターフェースのMTU設定は無視してカプセル化し、送信する物理インターフェースのMTU設定に従ってカプセル化後のパケットをフラグメントする。★

○ IPv6 インタフェースのリンク MTU の設定

[書式]

```
ipv6 INTERFACE mtu MTU0
ipv6 pp mtu MTU1
ipv6 tunnel mtu MTU2
no ipv6 INTERFACE mtu [MTU0]
no ipv6 pp mtu [MTU1]
no ipv6 tunnel mtu [MTU2]
```

[設定値及び初期値]

・ INTERFACE

[設定値] :

・ LANインタフェース名

[初期値] : -

・ MTU0, MTU1, MTU2

[設定値] : MTU の値 (1280..1500 ; RTX5000、RTX3500 の LAN インタフェースは 1280..9578、RTX3510、RTX1300 の LAN インタフェースは 1280..10218)

[初期値] :

- ・ MTU0=1500
- ・ MTU1=1500
- ・ MTU2=1280

[説明]

IPv6 インタフェースの MTU の値を設定する。

[ノート]

ipv6 tunnel mtu コマンドは RTX5000 / RTX3500 Rev. 14. 00. 29 以降、RTX1210 Rev. 14. 01. 34 以降、RTX830 Rev. 15. 02. 10 以降、および Rev. 15. 04 系以降で使用可能。

L2TP接続ではトンネルインターフェースやPPインターフェースのMTU設定は無視してカプセル化し、送信する物理インターフェースのMTU設定に従ってカプセル化後のパケットをフラグメントする。★

[63] メール通知機能で、LANマップのエージェントスイッチのQoS送信キュー使用率が100%から正常値に戻ったときに、QoS送信キュー使用率の異常が未解消と通知されるバグを修正した。

[64] DHCPサーバー機能で、DHCP Request受信時に予約アドレスを割り当てられなかった場合にデバッグログに不正なIPアドレスを出力するバグを修正した。

[65] DHCPサーバー機能で、DHCP予約アドレスを範囲指定かつOUI (ベンダーID) 設定にしたときに、複数のDHCP要求を同時に受信するとIPアドレスを割り当てられないことがあるバグを修正した。

[66] QoSのクラス分けフィルターで、以下のバグを修正した。

- IPv4の全パケットを対象とするフィルターがあると、それより後に評価されるすべてのIPv6のフィルターが無視される
- IPv6の全パケットを対象とするフィルターがあると、それより後に評価されるすべてのIPv4のフィルターが無視される

[67] DHCPv6-PD サーバー機能で、IAID による DHCPv6-PD クライアントの識別が行われないバグを修正した。

[68] ネットボランチDNS機能で、MAP-Eトンネルに設定されたグローバルIPv6アドレスが登録されることがあるバグを修正した。

- [69] IPv6で、ルーター発のIPv6パケットの送信元アドレスに、MAP-Eトンネルに設定されたグローバルIPv6アドレスが使用されることがあるバグを修正した。
- [70] OSPFまたはBGPで、以下の条件をすべて満たすとき、削除された経路がルーティングテーブルに残ることがあるバグを修正した。
- OSPFまたはBGPから同じ宛先の経路を複数導入している
 - 上記経路と同じ宛先の経路を静的経路で設定している
 - OSPFまたはBGP経路の優先度が静的経路より高い
 - 優先度が最も高い経路と次に高い経路が同時に削除される
- [71] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したIPv4パケットをL2TP/IPsecが設定されたトンネルインターフェースへ転送したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [72] ファストパスで、PPインターフェースへ送信するIPv4パケットを処理すると、PPインターフェースで送信パケットの数がかウントされないバグを修正した。
- [73] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したカプセル化されたパケットを処理すると、SNMPのMIB変数が誤ったインターフェースでカウントされるバグを修正した。
- [74] ファストパスで、トンネルインターフェースで受信した異なるトンネルインターフェースへ転送するパケットを処理したとき、受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [75] ファストパスで、IPIP(IPv6 over IPv4/IPv6)トンネル上に、IPsec、L2TPv3、L2TPv3/IPsecのいずれかのトンネルを使用している構成でパケットを処理すると、IPIPトンネルインターフェースの以下のMIB変数がカウントされないバグを修正した。
- ifInUcastPkts
 - ifHCInUcastPkts
 - ifInOctets
 - ifHCInOctets
- [76] ファストパスで、トンネルインターフェースで受信したIPv4パケットをL2TP/IPsecが設定されたトンネルインターフェースへ転送したとき、show status tunnelコマンドで表示する受信パケットの数やサイズがカウントされないバグを修正した。
- [77] ファストパスで、仮想LANインターフェースに設定したPPインターフェースからパケットを送信したとき、仮想LANインターフェースで以下のMIB変数がカウントされないバグを修正した。
- ifOutOctets
 - ifOutUcastPkts
 - ifHCOutOctets
 - ifHCOutUcastPkts
- [78] ファストパスで、仮想LANインターフェースで受信したIPv6マルチキャストパケットを処理したときに発生する以下のバグを修正した。
- show status lanコマンドで受信パケットのサイズがカウントされない
 - 以下のMIB変数が物理LANインターフェースと仮想LANインターフェースとで二重にカウントされる
 - ifInOctets
 - ifHCInOctets
 - 物理LANインターフェースのMIB変数でユニキャストとしてカウントされる
- [79] L2TPv3/IPsec接続で、以下の条件をすべて満たす場合に接続できないバグを修正した。
- トンネルの端点がIPv6アドレスである
 - トンネル番号が「1」以外に設定されている
 - ファストパスが有効になっている
 - Psecがアグレッシブモードで設定されている
- [80] PPPoE接続で、タグVLANインターフェースを使用しているとき、PPインターフェー

スのノーマルパスの受信パケット数が1パケットにつき4バイト少なくカウントされるバグを修正した。

- [81] DPIで一部のアプリケーションが正しく識別されないバグを修正した。
- [82] PPPoE、L2TP、PPTP、またはモバイル接続（モデム方式）で、以下の条件をすべて満たすとき認証エラーになるバグを修正した。
 - 認証プロトコルがMS-CHAPまたはMS-CHAPv2である
 - パスワードが33文字以上である
- [83] PP2インターフェース以降のPPインターフェースに対して以下のコマンドを設定したとき、ルーターを再起動しないとコマンドの設定が反映されないバグを修正した。
 - ip pp mtu コマンド
 - no ip pp mtu コマンド
- [84] TUNNEL2インターフェース以降のTUNNELインターフェースに対して以下のコマンドを設定したとき、ルーターを再起動しないとコマンドの設定が反映されないバグを修正した。
 - ip tunnel mtu コマンド
 - no ip tunnel mtu コマンド
- [85] DHCPv6-PDサーバー機能で、LAN側のインターフェースがリンクダウンしたときに発生する以下のバグを修正した。
 - show ipv6 routeコマンドで、DHCPv6-PDクライアント宛のTemporary経路が残る
 - show status ipv6 dhcpコマンドで、DHCPv6-PDクライアントに通知している情報が残る
- [86] DHCPv6-PDサーバー機能で、ルーターに接続中のDHCPv6-PDクライアントを外して、別のクライアントに繋ぎ変えたとき、その繋ぎ変えたクライアントがインターネットに接続できないバグを修正した。
- [87] show environmentコマンドを実行したとき、セキュリティークラスにSSHパラメーターが表示されないバグを修正した。
- [88] queue class filterコマンドで、送信元または宛先に' map-e'、' hb46pp' を入力してもエラーにならないことがあるバグを修正した。
- [89] DPIで、以下のアプリケーションが、show dpi applicationコマンドの実行結果に表示するバグを修正した。
 - rtpro
 - yamaha
- [90] 以下のコマンドで、未指定アドレス(0.0.0.0や::)、またはリミテッドブロードキャストアドレス(255.255.255.255)を設定してもエラーにならないバグを修正した。
 - dns host
 - httpd host
 - sftpd host
 - sntpd host
 - sshd host
 - telnetd host
 - tftpd host
- [91] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、コマンドラインからIPsec/IKEv2での拠点間接続が設定されているとき、Web GUIではIPsec/IKEv2での拠点間接続に対応していないのにも関わらず「接続設定の一覧」にIPsec接続と表示するバグを修正した。
- [92] Web GUIの[管理]-[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのエクスポート]で、「エクスポート先のファイル」への入力値が原因にもかかわらず「エクスポートするファイル」の入力値が原因とするエラーメッセージが表示することがあるバグを修正した。
- [93] Web GUIのLANマップで、dns hostコマンドが先に設定された状態でタグVLANの新規作成または変更を行ったときに、dns hostコマンドへのタグVLANの設定変更が保存

されないバグを修正した。

- [94] Web GUIのLANマップで、タグVLANの新規作成、変更または削除を行ったとき、保存が複数回実行されるバグを修正した。
- [95] Web GUIの以下のページでプロバイダー接続、またはNATディスクリプターの設定を削除するとき、対象のプロバイダー接続に同じ番号のNATディスクリプターが複数適用されていると、一部のNATディスクリプターが削除されないことがあるバグを修正した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]
 - 詳細設定の[プロバイダー接続]-[設定内容]-[NATの設定]
- [96] Web GUIのLANマップで、L2MSエージェントの機器名を変更したとき、LANマップに反映されるまでに時間がかかるバグを修正した。
- Rev. 23.00.14以降で発生する。
- [97] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、データコネクト接続(IPsec)の設定を変更したとき、以下のコマンドの設定値が意図せず変更されることがあるバグを修正した。
- ipsec sa policy
 - ipsec ike nat-traversal
- [98] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、IPsec/IKEv1接続の設定を変更したとき、以下のコマンドの設定値が意図せず変更されることがあるバグを修正した。
- ip tunnel tcp mss limit auto
 - ipsec ike keepalive log
 - ipsec ike keepalive use
 - ipsec ike nat-traversal
 - ipsec sa policy
- [99] Web GUIの管理の[アクセス管理]-[各種サーバーの設定]の下記設定で、未指定アドレス(0.0.0.0や::)あるいはリミテッドブロードキャストアドレス(255.255.255.255)を設定してもエラーにならないバグを修正した。
- [Web GUIへのアクセス]-[GUIへのアクセス許可]-[指定したインターフェース/IPアドレスのみ許可する]-[IPアドレス]
 - [TELNETを使用したアクセス]-[TELNETサーバーへのアクセス許可]-[指定したインターフェース/IPアドレスのみ許可する]-[IPアドレス]
 - [SSH/SFTPを使用したアクセス]-[SSHサーバーへのアクセス許可]-[指定したインターフェース/IPアドレスのみ許可する]-[IPアドレス]
 - [SSH/SFTPを使用したアクセス]-[SFTPサーバーへのアクセス許可]-[指定したインターフェース/IPアドレスのみ許可する]-[IPアドレス]
- [100] Web GUIで、[詳細設定]-[プロバイダー接続]から下記の条件をすべて満たす接続を新規作成したあとに再起動を行うと、フィルター設定の一部が消失するバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
 - IPv4 over IPv6トンネルの設定が「使用する」になっている
 - IPフィルターの設定で「推奨のIPフィルターを設定する」を1つ以上選択している
- [101] Web GUIの[かんたん設定]-[VPN]-[リモートアクセス]で、L2TPまたはPPTPの登録ユーザーをすべて削除したとき、削除したVPNがゲートウェイとなっている/1または/31宛の経路が削除されないバグを修正した。
- [102] Web GUIの以下のページで、RTproのURLの表記を「http:」から「https:」に修正した。
- かんたん設定の[アプリケーション制御]
 - 管理の[本体の設定]-[DOWNLOAD ボタンの設定]-[入力内容の確認]-[ソフトウェアライセンス利用規約]
- [103] Web GUIで、拠点間接続VPNおよびリモートアクセスVPNが設定されている状態で以下のプロバイダー接続の設定を行うと、VPN接続ができなくなるバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続

- 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
- BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
- OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
- transix IPv4 接続 (固定 IP)
- v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
- v6プラス固定 IP サービス
- クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[104] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に不正なIPアドレスを入力してもエラーにならないバグを修正した。

[105] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、`ipsec ike remote address`コマンドにanyが設定されている場合、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に設定値が表示されないバグを修正した。

[106] Web GUIで、以下のプロバイダー接続と拠点間接続VPNまたはリモートアクセスVPNを設定した状態で、プロバイダー接続の設定を削除したとき、VPN接続の静的IPマスカレードの設定が削除されないバグを修正した。

- IPv6 IPoE接続
 - 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[107] Web GUIで、以下のプロバイダー接続と拠点間接続VPNまたはリモートアクセスVPNを設定した状態で、プロバイダー接続の設定を動的IPアドレスまたはIPv4 over IPv6トンネル未使用のプロバイダー接続に変更したとき、VPN接続の静的IPマスカレードの設定が削除されないバグを修正した。

- IPv6 IPoE接続
 - 国内標準プロビジョニング方式による自動接続
 - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
 - OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
 - transix IPv4 接続 (固定 IP)
 - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
 - v6プラス固定 IP サービス
 - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約

[108] Web GUIの以下のヘルプページで、RTproのURLの表記を「http:」から「https:」に修正した。

- 全般の[はじめに]
- ダッシュボードの[概要]
- かんたん設定の[YNOエージェント]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[NAT]
- 詳細設定の[セキュリティ]-[URLフィルター]
- 管理の[外部デバイス連携]-[USB / microSD]
- 管理の[保守]-[コマンドの実行]

[109] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。

- `show ip connection`
- `show ipv6 connection`

■更新履歴

Nov. 2024, Rev. 23.00.14 リリース
 Nov. 2024, 仕様変更[14][15] 文言修正
 Apr. 2025, Rev. 23.00.16 リリース
 Oct. 2025, Rev. 23.00.17 リリース

以上